

麓太夫のメリヤス節

木谷蓬吟

近世歌舞伎史の上で群を抜いて光つてゐるのは、化政期の大阪俳優梅玉歌右衛門であることは異論のないところであらう。これを淨瑠璃界に求めると、殆ど同じ時代に、同じ大阪に、全淨瑠璃界を代表する名人に、初代豊竹麓太夫を獲たことは會心事である。

しかも、その藝域の極めて廣いこと、藝風の華やかなことも、人氣の非常なこと、生活の富裕であつたこと等、相似點が甚だ多い。一代の名人と謳はれ一世の人氣を負ひ、饒かな生活に恵まれた藝界の寵兒として、まことに稀有

な双壁と云つてよい。更に麓太夫には、尙ほ梅玉の遂に及び得なかつた今一つの大きな福德を占めてゐた。それは、此上もない長命であつたことである。

梅玉は六十一歳で歿し、一般に高齡者と稱せられる尾上多見藏や中山百花は九十歳まで生き延びたが、麓太夫は九十三歳の高齡を保つことが出来た。尤も敵役の名人藤川武左衛門は百十二歳まで生きたが、これは例外に屬する……壽福具足の幸運兒麓太夫は、二十八歳の初床から最後の床は八十七歳で、博勞町稻荷芝居で得意の「蝶花

形八ツ目」を勤めて引退したが、この時、尙ほ音聲に衰へを見せず、天來の美音に滿都の男女は引退尙早を喧傳したといふことである。六十年の長い床生活だけに、藝談逸話も少くはない、「太功記十段目」と妻女との有名な逸話等々、既に周知のことであるから、茲には餘り世に知られてゐない一話を拾つて見る。

麓の美聲は、不思議にも若年から老境まで狂ひがなかつたと云ふが、この天與の賜を占有したゞげに、三段目物を語るにも、いつも派手に、華やかに演出する傾きがあつた。例へば、太功記十段目、蝶花形八ツ目、八陣本城、日吉九三段目、信仰記爪先鼠など、今にその風が遺つてゐる。その結果は、缺點難點も生れて来るが、兎に角、天然の妙音がさせる業で、わざとでなく、

こしらへ聲でもない爲に、他の缺點も
おのづから抹消されたものらしい。し
かし、淨瑠璃の節は、常に、たしかに、
伸び勝ちであつたことは否めない。彼
の十八番「太十」の中でも、殊に大評

判となつた「コレ見給へ光秀殿、いく
さの首途に」の操のクドキの伸び加減
は、相當たいしたものであつたことは、
今聞いて見ても想像できるが、これが
また、聴き手の魂を小躍りさせて、人
氣的ともなつた。攝津大塚の、若い
越路時代には、美音にまかせて、節を
繰り上げ繰り卸し、見臺に伸び上つて、
聲をはかりに伸ばしたものである。酒
屋のサワリの「今頃は半七さん、どこ
にどうして」の間に京都まで五回汽車
で往復できたなど落語子が高座で辯じ
たほどである。私はこれを稱して「越
路のメリヤス節」だと某誌上に批評し

た、それが父の目に留つて手ひどく叱
られた思出もあるが、麓太夫は、恐ら
くこのメリヤス節のオーソリティーで
あつたのかも知れない。

しかし、名人のメリヤス節は批難す
べきでなく、むしろ明朗淨瑠璃の權道
一流として迎へるに吝ではないが、た
ゞ鶉の眞似をする鳥太夫が、伸びた儘
で縮まらず、縮んだ儘で伸びぬ糸質の
悪い、編み方の粗末なメリヤス節粗製
品は困るのである。良質のメリヤス節
は、伸縮自在、弾力性のあるところに
無上の價値が存するのである。

當時堂島に、素人義太夫大家揃ひの
一團があつて、麓のメリヤス節に反感
を持つたが「麓の藝には感服するが聲
にまかせて場當りのケレンが多いは聞
き苦しい、我等の會合へ招いて語らせ
た上、單刀直入の批評兼警告を與へよ

うでないか」と衆議一決、一日、麓を請
じて「何か一つ」と引出しにかゝつた
ところ、彼は大の謙遜家であり、いつで
も「私の藝はいつ迄たつても麓で止つ
居りますので、なか／＼山へは登れま
せん」と云つてゐたし、對手が皮肉屋
揃ひでもあり、堅く辭退したが許され
ない「では何を語らせて貰ひませうか」
暗に何でも語るぞと云つた風に取つた

皮肉團は、グツと癢にさへて別室で秘
密會議の結果「頼光山入」の道行を抜
選した。これは大近松の作で元祖義
太夫が豪快な四天王名乗りの道具屋節
で、聴き手の荒膽をひしぎ、衣洗ひの
文彌地「可愛や不憫や妹も、ゆうべの
寝酒に引裂かれ」で肌に粟を生ぜしめ
たと云ひ、竹豊故事の「頼光山入の道
行は竹本氏の一節に綾錦の如く語り」
と絶讃した、曰く付きの元祖得意の難

次 號 豫 告

創刊號は文樂特輯の感を呈しましたが、次號よりは歌舞伎其他古典藝能全般に亘つての記事をも收載、古典藝能研究誌としての使命を果すべく努力中でございます。

特別記事 菊五郎・梅玉對談

主なる 今日出海・藤森成吉・伊藤永之介

執筆者 森田たま・杉村春子・齋藤清二郎

木谷蓬吟・戸板康二・山口廣一

十二月號・十二月上旬發賣

平井房人の

スタイルブック

冬・春の巻

價三五圓 發三圓

冬から春へのモードを蒐めて斷然ズバ抜けた美しさの超豪華版・極上質用紙使用・全頁最高級オフセット多色刷………。

十一月下旬發賣

豫約受付中

誠光社

大坂市南區本筋三丁目五番

曲、しかも手ほどきにも便はれたもので、却てねぶか大夫は知つてゐるが、

大家は餘り御存じない。これを籠に注

文した。「久しく見ませんが、マアやら

して貰ひませうか」従容としてピクと

もしない、とても籠でウジ／＼してゐ

るやうな男ではない。さて語り出した

が、驚いたは皮肉團の面々、音と云ひ

節と云ひ、高雅で明快、それにこぼれ

るやうな情愛が何ともかとも云はれな

い、「師匠、芝居で聽くのと、語り口が

大變に違ふやうですが」籠は首をすく

めて「へい、何分お芝居では、いろん

なお方を前にしますので、それに人形

もはいろいろですので……」と微笑した。

茲に於て皮肉團員完全に敗戦、八・一

五のお墨附を戴く事になつた。

キツチリ極り切つた藝は、佛藝で生

きてゐない、格に入つて格を出ないで

は眞の淨瑠璃でない」と元祖は喝破して

ゐる。メリヤスは伸縮自在、大きくも

なり小さくもなるから莫大小と書く。

籠はこのコツを知つてゐるから、彼の

メリヤス節は尊敬してもよい事にな

る。

メリヤス節には、別に第二の意義が

ある、それは調子が陰氣で淋しく、と

かく滅入り易いので「めいりやす」節

だと。けだし、女の愚痴に節附けた

やうな、アノしめり氣を指摘したもの

であらう。

この二つのメリヤス尺で、今の文樂

座を測つて見ると、長短いづれが優つ

てゐるか、私には判らないが、どちらに

しても名人藝なら結構といふ屈伸自在

の結論で、まづ留針を打つて置かう。